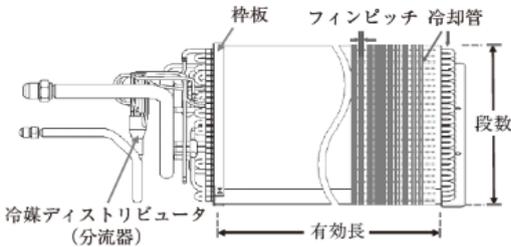
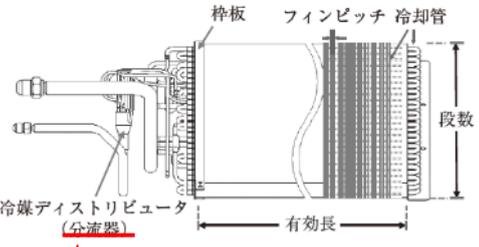
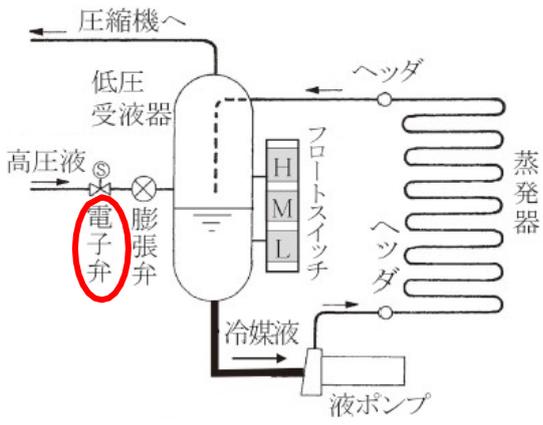
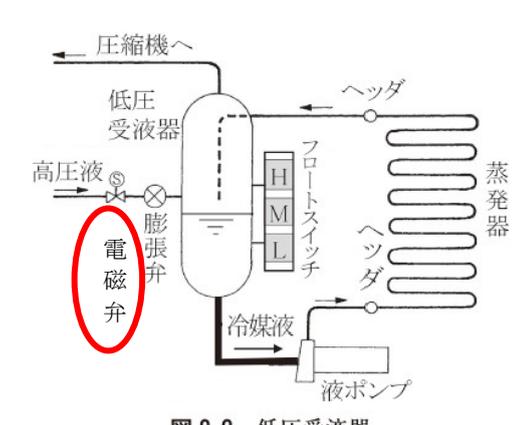


※	頁	該当箇所	誤	正
★	62	13行目	対流平均温度差	対数平均温度差
★	9	7行目	～を用いる冷凍機ものなどがある。	～を用いる冷凍機などがある。
★	183	1行目	(7.4.3項、8.2節参照)	(7.3.2項、8.2節参照)
★	169	下から5行目	～を閉じて冷媒装置を運転し、・・・	～を閉じて冷凍装置を運転し、・・・
★	79	図7.1 (下図)		
★	75	表6.3	平均温度差 5	平均温度差 6
★	29	下から2行目	$\frac{P_k}{P_o}$	$\frac{p_k}{p_o}$
	148	2行目	内径560mm	内径570mm
	148	8行目	Di=560mm	Di=570mm
	148	10行目	$t = \frac{PD_1}{2\sigma_a\eta - 1.2P} + \alpha = \frac{1.78 \times 560}{2 \times 100 \times 0.7 - 1.2 \times 1.78} + 1 = 8.24 \approx 8.3\text{mm}$	$t = \frac{PD_1}{2\sigma_a\eta - 1.2P} + \alpha = \frac{1.78 \times 570}{2 \times 100 \times 0.7 - 1.2 \times 1.78} + 1 = 8.36 \approx 8.4\text{mm}$
	148	14行目	ここで、8.3mm以上の・・・	ここで、8.4mm以上の・・・
	47	表4.2	R410A (沸点/露点) -51.37 / -51.46	R410A (沸点/露点) -51.46 / -51.37
	163	27行目	到達真空度は、少なくとも-93kPa (絶対圧力では8kPa) 程度で行う。	真空試験の圧力は0.6kPa (5torr) 以下の真空度で行う。

85	図7.11(b)	<p>図 7.11 (b) 冷凍・冷蔵用蒸発器 (ユニットクーラ) の熱通過率の例</p>	<p>図 7.11 (b) 冷凍・冷蔵用蒸発器 (ユニットクーラ) の熱通過率の例</p>
28	13 行目	シリンダ容積	全ピストン行程容積
28	16 行目	L : ピストン行程容積 (m)	L : ピストン行程 (m)
55	5 行目	最低の凍結温度 (共晶点) は濃度 30mass% で生じ -55°C である。塩化カルシウムブラインの実用温度範囲は図中に斜線で示した -40°C までである。	最低の凍結温度 (共晶点) は濃度 30mass% で生じ -55°C であり、ブラインとしての実用温度は -40°C くらいまでである。
55	17 行目	二酸化炭素は、自然冷媒または無機ブラインに分類されるが、アンモニア冷凍機などと組み合わせた冷凍・冷却装置の二次冷媒 (ブライン) としても使われている。二次サイクルにおいて送液され顕熱のみを利用する塩化カルシウムブラインや塩化ナトリウムブラインとは異なり、二酸化炭素を二次冷媒 (ブライン) として使用するシステムは、	二酸化炭素は、自然冷媒に分類されるが、アンモニア冷凍機などと組み合わせた冷凍・冷却装置の二次冷媒としても使われている。二次サイクルにおいて送液され顕熱のみを利用する塩化カルシウムブラインや塩化ナトリウムブラインとは異なり、二酸化炭素を二次冷媒として使用するシステムは、
63	1 行目	熱伝達率	熱伝導率
63	8 行目	$K=0.115\text{kW}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$	$K=0.115\text{W}/(\text{m}^2 \cdot \text{K})$
63	12 行目	$6.90\text{kW}/\text{m}^2$	$6.90\text{W}/\text{m}^2$

94	図 8.2	 <p>図 8.2 低圧受液器</p>	 <p>図 8.2 低圧受液器</p>
132	9 行目	(2)過大な圧力降下と騒音が生じない程度に，蒸気速度を圧力降下が抑える。	(2)過大な圧力降下と騒音が生じない程度に，蒸気速度を抑える。
156	19 行目	このような液封による事故は，低圧液配管（二段圧縮冷凍装置の過冷却された液配管や，冷媒液強制循環式冷凍装置の低圧受液まわりの液配管）において発生することが多い。	このような液封による事故は，二段圧縮冷凍装置の過冷却された液配管や，冷媒液強制循環式冷凍装置の低圧受液器まわりの液配管において発生することが多い。